

体操を軸とした健康づくりを通じて 子どもの向上心と、協調性を引き出す。

元オリンピック女子体操選手の池田敬子さんが校長を務めるジャンピング体操スクール。今、そこで学んだ子どもたちの競技成績が格段に伸びている。体操を通じて技術だけではなく、基礎体力の向上から、マナー、協調性など、人として必要なことを教えるという姿勢が原動力となっている。

挨拶ができない子には、練習させない。

2011年3月21日、第三回ジャンピング体操スクール池田杯が開催され、広島県にある同スクールの鈴峯教室には、県下から数多くの子どもたちが集まった。

競技の内容は、床運動、跳馬、鉄棒の三種目。幼児と小学生の子どもたちが、日頃練習した技を競い合う。名前を呼ばれた子は「はい」と大きな声で返事をしてから演技に入った。

この子どもたちは、けっして優秀な生徒ばかりではない。

「むしろ、運動音痴といえる子や、元気も能力もあるけれど人の指示を聞けないような子どもたちを預かって、指導しているのです。人の命の尊さや、協調性などを学んで欲しいと考えています」とスクールを主宰する池田敬子さんはいう。

したがって指導の最初は挨拶から入る。挨拶ができない子は練習もさせない。頑固な子にも粘り強く指導をする。目の前で先輩や友人たちが楽しそうに演技するのを見て、最後は子どもの方からその輪に入ろうとするのだという。

「多少難ありという子は、やはり親に原因があることが多いです。過保護であったり、うちの子はもっとできるはずなのに、なぜ上のクラスにいけないのか、などと言ってきます。客観的に我が子を見ていないのですね。そうした親の教育も必要だと考えています」

指導当初はでんぐり返しさえできない子どもたちも、1年もすれば、まずまずの演技ができるようになる。中には急成長をして、一般コースから競技コースへ進む子も現



第三回ジャンピング体操スクール池田杯を開催



指導の最初は挨拶から入る

れる。

「子どもの可能性は無限大です。体操は、バランスや柔軟性などを養いますので、あらゆるスポーツの基礎となります。将来的に体操とは異なるスポーツをする場合でも、ここでの経験は大いに役立つと思いますよ」と池田さんは語る。

同スクールでは教室での指導だけではなく、県下の幼稚園などに出向いて、先生方に指導方法などを伝授している。指導者のレベルが上がることで、子どもたちの能力の開花は格段に早まることになる。

競技会では、スクール生が上位を独占。

2010年度はさらに、子どもたちを伸ばすための施策がとられた。指導している幼稚園の合同発表会と、第4回中国ブロックジュニア体操競技選手権・競演大会への参加である。

前者は2010年10月28日に広島グリーンアリーナで開催された。同スクールが指導している12の幼稚園の園児が参加し、組体操や棒を使った体操などを披露した。

「人前で演じることはものすごく大きな体験です。練習



ピットを保有しているため難易度の高い演技の練習ができる



広島県立総合体育館で行われた第34回ジャンピング体操大会

担当者より



環境さえあれば、
子どもは健全に、
健康に育ちます。

ジャンピング体操スクール
校長
池田敬子さん

「健康大好き」が私のモットーです。今の子どもたちは確かに体力もなく、人との協調にも欠けるところがありますが、それは環境がないだけです。うちの子どもたちは皆いい子ばかり。AJOSCのご支援を子どもたちに代わって心より御礼申し上げます。

では一度もできなかったことが本番でできることもあります。また、他人と競争することを覚えることも大切なのです。池田さんは昨今の子どもたちに競争をさせない風潮は、子どもたちの向上心とチームワークに必要な協調性を低下させてしまうという。

第4回中国ブロックジュニア体操競技会の方は競技レベルが高く、インターハイなどを目指すジュニア育成のための大会である。この大会では、各部門の上位をジャンピング体操スクールの門下生が独占する結果となった。

その強さの秘密は、指導力の強化と特殊なピット(衝撃吸収力の高いマット)を同スクールが保有していることにある。難易度の高い技はケガの危険も大きい。このピットによりケガを未然に防ぎ、選手が安心して難易度の高い技に取り組める環境が整備された。

残念ながら、ピットは高価で、日本でも数えるほどしか導入されていない。そこで、同スクールは他の団体などにもこのピットを開放し、多くの選手が利用できるようにしている。

最近、お子さんを連れてくる親の中には、池田さんのかつての教え子たちが増えてきた。また、コーチたちはみなスクールの出身である。優秀な成績よりも、体操を軸として健康づくりに気遣う人々の裾野が広がったことが、「何よりも嬉しいことです」と池田さんは語ってくれた。